

数学・文系 — 岡山大学 2025 年入試問題分析 — **岡山進研学院**

全体講評： 昨年とは出題範囲や内容が一新された。相変わらず良問のセットではあるが、出題傾向は固定されず偏りも感じられない。大問1は現役生には少しなじみが薄いか。大問2、3は完答を目指したいが場合分けの訓練などは日頃からきちんとしておくべきである。大問4は文理共通問題である。文系にとっては少々ハードルが高い。毎年出題のあった場合の数、確率やベクトルが今年では出されなかった。	試験時間	120 分
	難易変化	易化 / やや易化 / 昨年並 / やや難化 / 難化
	分量変化	減少 / やや減少 / 昨年並 / やや増加 / 増加

大問	区分	内容	講評	レベル
問1	数A	不定方程式	問題の設定は理系と共通。現役生には少しなじみが薄いか。数字が大きくなったり、絶対値の処理などで差が付きやすい問題。	★
問2	数Ⅰ、Ⅱ	三角関数 2次関数の最大最小 不等式と領域	最初の式変形を間違えないこと。また、その後の場合分けも基本的ではあるが頂点に三角関数が含まれる分、やりづらい。	★
問3	数Ⅱ	指数関数 4次関数の最大最小	典型問題で、一番解きやすいか。相加相乗平均での範囲設定や4次関数の増減表も定石といえる流れなのでここは解いておきたい。	★
問4	数B	格子点 数列の和	理系と共通問題。格子点という文系にとってはハードルが高い問題なので、ここは部分点狙い。しかし、今年度の共通テストの復習次第で差はつけられるか。	★★★

学習指針： 文系限定の問題は標準的な良問多く、日頃の演習で十分に対応できる。チャート式やフォーカス等網羅系の参考書の例題から数多くの演習を積んでいくこと。そのうえで理系と共通の問題のような少しレベルの高い問題にも挑戦し、差をつけていくことが効果的と思われる。数学で『勝ちたい』人は理系レベルの問題演習も積極的にこなしていくこと。また、共通テストと同じテーマの出題があった。入試期間中であっても復習を疎かにしないこと。	※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★★★ やや難 → ★★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)
--	---